

避難所運営で 独自マニュアル

地震など備え「地域主導」

地震などに備え、京都市上京区の成逸学区の自主防災会が被災生活の場となる避難所の詳細な運営マニュアルを独自に策定した。策定の手引きは市や京都府になく、三重、石川の両県版を参考にした。学識者は「地域住民が災害発生後に運営の在り方を決めるようでは遅い。成逸の試みが京都モデルとなって広がれば」と期待する。

上京・成逸学区で策定

市の地域防災計画で、違いがあり、学区単位は、災害発生後、区役のマニュアルを作った所が避難所を開設し、めの手引きは難しい。住民が運営協議会をつとめている。計画では、避難所運営を決める段取りになる。市消防局は、主導するが、長期化する場合は、住民の自主的運営を求めている。ただ、各学区で避難所の新潟県中越沖地震や中の形態や住民の意識に、国・四川大地震などが

食糧調達など役割決める

相次ぐなか、成逸の自主防災会は避難所を分割振った。さらにスムーズに運営する食糧や物資が不足したために、独自のマニュアルを作ることにした。昨春に阪神大震災の被災者から体験談を聞き、トイレの管理や少くない食糧の分け方、身勝手な人への対応といった課題を出し合い、協議を重ねた。マニュアルでは、食糧調達や炊き出し、ボランティア受け付けなど八つの班を編成し、

独自に策定した避難所運営マニュアルを手に、一層の内容充実を訴える自主防災会の牧本会長（京都市上京区）

各自に役割を決めた。また、マニュアルは地域主導で作るべきだ。神戸にも成逸ほどきめ細かな内容は恐ろしくない。京都は大地震が起きる可能性が高いのに、のんびりしている感がある。他の学区も成逸の取り組みを参考にしたい」と話している。（松浦吉剛）



独自に策定した避難所運営マニュアルを手に、一層の内容充実を訴える自主防災会の牧本会長（京都市上京区）